令和５年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

（地域の中核劇場・音楽堂等活性化）

成果報告書

団体名		長久手市
施設名		長久手市文化の家
助成対象活動名		人材養成事業・普及啓発事業
内定額(総額)		3,692 （千円）
	公演事業	0 （千円）
	人材養成事業	2,824 （千円）
	普及啓発事業	868 （千円）

（２）令和５年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数（人）	
1	創造スタッフ事業	年間	児童館音楽デリバリー、小中学校アウトリーチ、劇場上演作品制作等契約業務 小西祐矢（美術系創造スタッフ） 大脇ぱんだ（演劇系創造スタッフ） 小田智之（音楽系創造スタッフ） 内田一晟（音楽系創造スタッフ） 高野葵（美術系創造スタッフ） 林友里菜（舞踊系創造スタッフ）	目標値	6（公演・ワークショップ等の参加者数2000）
		長久手市内		実績値	約 3,000
2	（助成対象外）			目標値	
				実績値	
3	長久手市劇団 座☆NAGAKUTE	R6.3/16-17 3 回公演	演目：ジプシー　千の輪の切り株の上の物語 出演：長久手市劇団 座・NAGAKUTE 指導/演出：佃典彦	目標値	座☆NAGAKUTE 第３４回公演　４５０（１５０×３ステージ） 公開稽古３０（３０×１ステージ） 演劇関連ワークショップ１２０（２０×６ステージ）
		長久手市文化の家森のホール		実績値	537
4	（助成対象外）			目標値	
				実績値	
5	（助成対象外）			目標値	
				実績値	
6	アートスクール講座「戯曲セミナー講座及び発表会」	R6.3/16	第 1 話「言い残したこと」作：田村優太 出演：石川朋未、日坂朱里　ナカガワアツキ 第 2 話「よそごと」作：日坂朱里 出演：中尾達也、三角ダイゴ 第 3 話「アラレ」作：台越竜太郎 出演：太田竜次郎、荘加真美、林優花、西田亮太 第 4 話「白雪姫の棺と七人の小人」	目標値	参加者：30 発表会 200

		長久手市文化の家 風のホール	作：久田恭子 出演：田村優太、中尾達也、林優花、三角ダイゴ、石川朋未、荘加真美、黒川ゆかり、佃典彦 講師・演出　はせひろいち（劇団ジャブジャブサーキット）	実績値	参加者：15 発表会：137

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（３）令和５年度実施事業一覧【普及啓発事業】

<table>
<tr><th rowspan="2">番号</th><th rowspan="2">事業名</th><th>主な実施日程</th><th rowspan="2">概　要
（演目、主な出演者、スタッフ等）</th><th colspan="2" rowspan="2">入場者・参加者数（人）</th></tr>
<tr><th>主な実施会場</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">長久手市文化の家エデュケーション・プログラムであーと</td><td>中学校
R5.6/21,7/4.7/12
小学校
R6.2/8,2/15,2/20,2/22,3/13,3/14</td><td rowspan="2">中学校：猪子奈津子、角美吹、村松和奈、滑川敬一、安間花鶏、小田智之、内田一晟
小学校：徳田真侑、倉橋祐佳里、尾上一葉、山本奈緒、岡田愛音、小田智之、内田一晟</td><td>目標値</td><td>1,500</td></tr>
<tr><td>長久手市内
全小中学校
（中学校３校、小学校6校）</td><td>実績値</td><td>1,425</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">インクルーシブ事業</td><td>展覧会 R5.5/17-28
講演会：6/23
ふくしでーと：6/8,9,11/3,10</td><td rowspan="2">展覧会：ジョブ長久手、きらり、IMON長久手、百、ストラーダ長久手、フォーリーフジョブトレ、フォーリーフはなみずき校
講演会：小室敬幸、内田一晟、小田智之
ふくしであーと：石川貴憲、菅原拓馬</td><td>目標値</td><td>1,500</td></tr>
<tr><td>展覧会、講演会：長久手市文化の家
ふくしであーと：長久手市内</td><td>実績値</td><td>776</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">音楽講座シリーズ</td><td>R5.4/9,8/27,
R6.1/12</td><td rowspan="2">小室敬幸、田畑孝高、菅原拓馬</td><td>目標値</td><td>400
（各回80）</td></tr>
<tr><td>長久手市文化の家森のホール、光のホール</td><td>実績値</td><td>236</td></tr>
</table>

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

２．自己評価

（１）妥当性

自己評価
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
人材養成事業では、創造スタッフ制度で若手アーティストの自由な創作活動を支援し、新しい企画を生み出し、異分野コラボレーション公演など、オリジナリティのある公演を実施している。市民劇団での活動を通じて、演劇の魅力を発信し、人々の交流の場を創出している。戯曲セミナーで市民が演劇制作に携われる機会を設け、文化芸術活動への参加を促進している。 普及啓発事業では、であーとで子供たちに質の高い音楽体験を提供しつつ、地元アーティストの活躍の場を設けるなど、地域に根差している。インクルーシブ事業では男女共同参画や高齢者・障がい者支援など、地域の実情を踏まえた多角的な取り組みが実施されていた。音楽講座シリーズは、公演を超えた音楽理解の促進を目指す企画であった。講師に評論家を起用するなど、高い専門性を持った構成であった。このように、地域の実情や課題に合わせて事業が工夫しており、計画した事業を予定通り進めることができた。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
文化的意義として、人材養成事業では、創造スタッフ制度による新進アーティストの育成、市民参加型事業を通じた文化芸術活動への市民お関心と能力の向上が挙げられる。普及啓発事業では、であーとやインクルーシブ事業で、子供から高齢者、障がい者などすべての人を対象に、質の高い文化芸術体験の機会を提供し続けている点が評価できる。事業を通じて地元アーティストの活躍の場を設けるなど、地域の実演芸術の発展と次世代育成にも寄与している。 社会的意義としては、創造スタッフの児童館デリバリーや福祉であーとなどのアウトリーチ活動による文化芸術の身近な体験機会の提供、市役所各課が取り組む課題に対してのアイディアや技能を提供するアプローチ、市民劇団活動を通じた世代を超えた地域交流と居場所づくりなどが挙げられる。普及啓発事業のインクルーシブ事業で、文化芸術を活用して様々な社会課題に新しいアプローチを試みており、地域社会の活性化と共生社会の実現を目指す先駆的な役割を果たしている。 経済的意義としても、観客層の開拓や文化需要の掘り起こしにつながるだけでなく、地元アーティストの活躍の場を提供することで、地域の文化芸術産業の底上げにも寄与しており、長期的な視点からも事業の発展可能性を見据えた場合、地域社会に大きな恩恵をもたらし続けるものと期待できる。

（２）有効性

自己評価
目標を達成したか。
人材育成事業の目標として、創造スタッフによる自主企画件数の目標値 20 件を下回る 17 件であったが、昨年度の実績値 15 件より多くの企画を実施することができた。特に美術やダンスのワークショップを館内で実施する回数が増えたことが、増加に繋がったと考えている。 また、劇場外での公演回数は概ね目標値を満たす回数を達成することができた。 普及啓発事業の目標では、興味関心の誘発度、新規参加者の割合は概ね設定値を満たす内容であったが、劇場組織や事業の持続性を考慮すると、新規参加者のほか、リピーターを獲得していくことも目標として掲げていく必要がある。 新聞記事の掲載目標については、地元紙 1 社の掲載が多く、掲載数の目標達成および増加に繋がらない要因となっている。他社への積極的な広報活動が今後の課題となっている。

（３）効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
人材育成事業に関しては、　戯曲セミナー講座も市民劇団も定期的な稽古や講座を滞りなく実施でき、定期公演や成果発表についても準備から当日に至るまで問題なく進んみ、たくさんの集客と参加者からの高い評価を得た。 創造スタッフ事業に関しては、創造スタッフの自主性や創造性を尊重したことから、当初の予定内容から一部変更が出た。一方で年間スケジュールに沿って活動でき、当初の予定以上に年間で制作される企画が多く、効率性という観点では大きく評価できる。 普及啓発事業についてもであーと事業やインクルーシブ事業は、計画から大きく逸れることなく事業を実施することができた。音楽講座シリーズについては、講師との調整で当初の計画回数から実施数を減らすこととなり、変更申請をする必要が生じた。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。
人材養成事業については、創造スタッフ事業で年間の契約の中で数多くの事業を展開できた。創造スタッフを起用し、スタッフが企画制作を行うことで、通常必要となる制作費用などを必要とせず、オリジナリティに富んだ企画を実施できた。市民劇団の定期公演と戯曲セミナーの発表会を同日に開催したことで、市民劇団の演出指導をする俳優が、戯曲セミナー発表会に出演するなど、観客や関係者を相互に活用することができた。 普及啓発事業では、学生や若手のアーティストを起用し、単純に出演料を支払うだけでなく、アウトリーチに対するランスルーを行っているため、アーティストの人材育成に繋がる側面もある。インクルーシブ事業では、文化芸術を活用した社会包摂の啓発以外に、市内の福祉事業所に所属する作家に対して報償費を支払うなど、地域の当事者への適正な費用の支出を行っている。

（４）創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。
人材養成の面では、創造スタッフ制度は同施設独自の強みであり、若手アーティストの創作活動を全面的にバックアップすることで、質の高い自主事業を企画・実施できた。創造スタッフ同士が分野を越えてコラボレーションする公演は斬新かつ魅力的で、長久手ならではのオリジナリティを体現している。このように、専門性の高い人材を常に確保・育成する体制が、文化の中心拠点としての機能発揮を可能にした。 さらに、戯曲セミナー講座では東海圏の劇作家を講師に迎え、優秀作品の舞台化も行うなど、演劇製作の総合的な体験ができる環境を整備した。演劇文化の継承と新たな創造の両立を目指すこの試みは、地域の文化拠点に相応しい意欲的な事業である。 また、市民劇団においても、プロの指導を受けられる体制を整え、発表の場を設けることで、演劇愛好家の裾野を広げる役割を果たした。市内のイベントでのアウトリーチ活動も行い、文化の家からはみ出して地域に文化を届ける中核拠点の責務を全うした。 普及啓発の面では、であーと事業において地元アーティストや創造スタッフを小中学校に派遣し、生徒たちに質の高い音楽体験を提供した。子供たちの日常の場に芸術を持ち込むことで、文化に触れる機会を広げ、アーティストの人生観にも触れられるようになっている。こうした取り組みを通じて、文化の家が文化芸術の普及拠点としての役割を果たしていると言える。 インクルーシブ事業は、文化芸術の力を活用して社会課題に取り組むユニークな試みである。男女共同参画や高齢者・障がい者の包摂など、広範な分野に文化の視点から新しいアプローチを試みている。このように、地域の多様な課題解決に芸術の可能性を活かそうとする姿勢は、文化拠点としての先駆的な活動と評価できる。 「音楽講座シリーズ」は、様々な音楽ジャンルへの理解を深め、新たな関心を喚起する講座である。クラシックからミニマル、演劇音楽など広範なテーマを扱うことで、文化の家が提供する公演の壁を越えて、音楽全般への興味関心を高める試みとなっている。 以上のように、多角的なアプローチで文化芸術の振興と地域課題解決に取り組むことで、長久手市文化の家は地域に不可欠な文化拠点としての存在感を示している。地域に根ざし、地域のために活動する、文化の拠点として機能を発揮できた。

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。
人材養成事業の創造スタッフ事業では、若手アーティストを創造スタッフとして採用し、自主事業への出演や創作活動の機会を提供することで、実践を通じた人材育成を行っている。舞踊、音楽、演劇などジャンルを超えたコラボレーション公演も数多く実施され、新たな創造性が生まれている。地元出身の創造スタッフは地域に親しみやすく、アウトリーチ活動などを通じて文化芸術の魅力を市民に直接発信している。また戯曲セミナー講座では、著名な劇作家で地元在住のはせひろいちを講師に迎え、受講生が創作した優秀作品を実際に上演する機会を設けている。演劇製作の総合的な体験ができる稀有な講座であり、戯曲創作から舞台公演までを一貫して体験できる点に大きな意義がある。さらに市民劇団「座☆NAGAKUTE」は、俳優の佃典彦の指導の下、年間を通じて稽古に取り組み、本格的な公演を行っている。演劇初心者から高齢者まで幅広い層が参加でき、鑑賞だけでなく演劇に直接携わる機会を提供している。地域のイベントへの出演もあり、多角的に演劇文化の普及と継承に努めている。 普及啓発事業のであーと事業では、子供たちに質の高い生の音楽を体験してもらうだけでなく、地元アーティストの活躍の場を設けることで、実演芸術の継承と発展を後押ししている。文化の家スタッフがアーティストをサポートし、良質な企画を作り上げることで、次世代の担い手の育成にも寄与している。インクルーシブ事業は、従来の文化施設の活動範囲を大きく越えた挑戦である。障がいや性別、国籍などを限定しない誰もが参加できる展覧会や福祉施設への訪問コンサートなど、社会包摂の視点から文化芸術の可能性を探っている。さらに「音楽講座シリーズ」は、クラシックやミニマルミュージックなど様々なジャンルへの理解を深め、新規の観客層開拓につながる画期的な取り組みである。文化の家が提供する公演をジャンルの枠を越えて広く魅力的に発信することで、地域の文化芸術をより豊かに実り多いものへと導く原動力になっている。 人材育成を通じた優れた公演創出、市民参加によるボトムアップの文化活動支援、地域アウトリーチと多方面からのアプローチ。普及啓発として、子供から高齢者、障がい者まであらゆる層に文化芸術を届け、地元アーティストの活躍を後押しし、新しい可能性を切り拓く点は、地域に根差した実演芸術の振興と地域文化の持続的な発展に寄与していると評価できる。

（５）持続性

自己評価
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
人材養成事業では、創造スタッフ制度が文化の家の中核事業として確立している。若手アーティストに創作の場を提供し、実践を通じて育成することで、質の高い公演を継続的に創出できる体制が整備されている。創造スタッフのメンバーが定期的に入れ替わることで、常に新しいアイデアが生まれ、オリジナリティの維持にもつながっている。加えて、創造スタッフが地元出身者であることから、地域住民にとっても身近な存在となり、施設への親しみやすさ、認知度の向上にも寄与している。アウトリーチ活動の協力要請も積極的に受け入れられ、行政の様々な部署や団体との連携が広がりを見せている。こうした創造スタッフ中心の取り組みが評価され、他の自治体でも同様の制度導入が始まるなど、長久手市文化の家のモデルが外部からも高く評価されている。さらに、市民劇団や戯曲セミナー講座を通じて、演劇を志す層への支援が行き渡っている。劇団員や受講生は市内外から広く集まり、需要の高さがうかがえる。上演の機会も設けられており、実践を伴う充実した人材育成が行われている。 普及啓発事業においては、であーと事業で長年に渡る教育委員会との連携関係が構築されており、事業の継続性を裏付けている。また、職員がアーティストのサポートとレクチャーを行うことで、ノウハウの蓄積と次世代育成を兼ね備えた体制が整っている。インクルーシブ事業では、アドバイザーからの専門的な助言を得ながら、関係各課との連携体制を構築している。福祉分野等の行政部門との対話を重ね、相互の理解を深めながら新しい取り組みを実践し、このプロセスそのものが、文化の家の組織力と可能性を大きく高める機会となっている。さらに音楽講座シリーズでは、ジャンルを越えて理解を促進することで、文化の家が提供する事業に対する新たな需要の掘り起こしにも繋がっている。こうした積極的な人材活用と事業アプローチが、持続的な成長に繋がっている。